

交流の拠点として
まちを元気にする手伝いがしたい

被災した石蔵を
イベントスペースとしてよみがえらせた

上田 賢一さん（願成寺町）

うえだ けんいち

昭和32年3月6日生まれ。人吉市出身。東海大学海洋学部航海工学科を卒業後、大型フェリーなどを運航する海運会社に就職。船舶職員として海上職に20年、営業や企画などの陸上職に20年携わる。令和2年5月に退職し帰郷。紺屋町にあるイベントスペース「asobibart街蔵」代表。遊び場＝asobibaと、アート＝artを掛け合わせて、asobibart。



▲ asobibart 街蔵外観（入り口）。イスマ本店の裏側に位置する



▲訪れた人から「音の響きが最高」「映え（ばえ）写真が撮れる」など好評を得ている



人吉で輝いている人

人が集まって催しを楽しんだり、地域の文化や芸術に触れたりしながらコミュニケーションが生まれる場所になりたい。令和2年7月豪雨で被災した石蔵をイベントスペースとしてよみがえらせた。石蔵は明治35年ごろに建てられ、昭和の終わりごろまでみそ醸造や原材料保管庫として使われたもの。今後、国の登録有形文化財として登録されることになっている。

退職後すぐに帰郷し趣味に生きようと思っていた矢先、令和2年7月豪雨が発生。自宅は無事だったが、亡き父・青木慎次さんが長年みそ醸造に励んだ石蔵が被災した。公費解体も頭をよぎったが、「歴史あるこの建物を残して、まちのために活用してほしい」という父の遺志を継いで復旧を決意。多くの人の協力を得ながら復旧作業に当たった。被災から1年後に開催した復興イベントを皮切りに、コンサートやマルシェ、展示会などの会場として活用される機会が増えると、「これからのまちづくりには、交流の場が必要だ」と確信した。

昨年7月、「asobibart街蔵」と銘打って新たなスタートを切った。今後はイベントスペースとしてだけでなく、地元アーティストを紹介する常設コーナーや人吉球磨の観光案内ブースを作ることも計画。交流の拠点として多くの人に活用してもらいたいと意気込む。

今月のPICK UP NEWS!



くま川鉄道、令和7年度全線再開へ

令和2年7月豪雨で流失したくま川鉄道の肥後西村駅（球磨郡錦町）と川村駅（球磨郡相良村）の間に架かる球磨川第四橋梁の復旧工事が始まるため、1月26日に起工式が行われました。新たに架け替える橋は、以前より橋脚の数を減らすなど、洪水時に川の流れを妨げない構造で建設予定。

神事で工事の無事を祈った後、くま川鉄道株式会社代表取締役会長の松岡市長が「くま川鉄道は人吉球磨地域を横断する地域交通の要。早期の全線開通は豪雨災害からの復旧・復興の大きなシンボルになると確信している」とあいさつ。同鉄道は令和3年11月に一部運行を再開して、令和7年度中の全線再開を目指します。



新たに架け替えられる橋梁の完成イメージ図（上）／起工式で工事の一步を意味する穿初（うがちぞめ）の儀を行う松岡市長（左下）／1日も早い全線開通を目指すことを報道陣に語るくま川鉄道の永江友二社長（右下）



CONTENTS

広報ひとよし
NO.1163

2023 MAR

3

03	お人よし
04	熊本市市町村広報担当者による合同特集
07	今、熊本のサッカーが熱い
08	令和2年7月豪雨からの復旧復興状況
10	令和4年度 市長と語る地域座談会
11	「ひとよし未来カフェ」実績報告
12	話題をおって
15	犬の新規登録受付と狂犬病予防注射
16	情報ひろば
24	ひとよしのお仕事file Let's フレイル予防
25	地域防災官の命を守る話 ふるひと どぎやんね
26	はい、こちら消費生活センターです 保健センター子育て通信
27	教えて！マイナちゃん 市長日記
28	わが家の愛ドル ようこそとしょかんへ！
29	みなさんからののおたより／hitoyoshigram 編集後記
30	ひとよしの情報発信・各種相談ガイド
31	休日在宅医・当番薬局・行事カレンダー
32	統一地方選挙投票日

※掲載している人物の写真は撮影時のみマスクを外している場合があります。

今月の表紙



復旧工事を終え、全面開通となった西瀬橋の渡り初めでは、さまざまな保育園の園児たちを先頭に、西瀬小の児童、3世代家族などが続いて歩き、橋の完成を喜びました。